



栄養・こども学部 健康栄養学科

講師 新井田 裕樹 NIIDA Yuki

専門・活動分野 応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学

最新の研究内容

テーマ： 地域在住高齢者におけるサルコペニア・フレイルの研究

研究/活動紹介

背景

日本は世界でも類を見ない速度で高齢化が進行しており、地域在住高齢者の自立した生活を維持することが社会的な課題となっています。高齢期における要介護化の主要因として、サルコペニア（骨格筋量・筋力の低下）およびフレイル（加齢などに伴う脆弱性の増大）が注目されています。これらは転倒・骨折、身体機能低下、慢性疾患の増悪、入院・死亡リスクの上昇といった健康アウトカムに強く関連します。

目的

フレイルやサルコペニアの実態を多面的に明らかにし、その評価と理解を深めるために、身体計測指標、フレイル・サルコペニア評価、日常身体活動量、さらに筋萎縮の分子機序といった異なる側面からその関連要因を検証し、簡便かつ有効なスクリーニング指標の確立と病態解明に資する知見を得ることです。

成果・効果や展望

本研究により、ウエスト・下腿周囲長比や1日の平均歩数といった簡便な指標が、地域高齢者のフレイル・サルコペニアの早期スクリーニングに有用であることが示されました。また、サルコペニアとフレイルの重複が生活機能低下と強く関連することや、脂肪酸代謝異常により筋萎縮を引き起こす分子機序が明らかとなり、予防・介入の科学的根拠が得られました。今後は、これらの指標や分子機序の知見を統合したリスク評価やデジタルヘルス介入の開発が期待され、高齢者の健康寿命延伸に寄与することが見込まれます。

<フレイル予防・高齢者の健康維持>



<サルコペニア・フレイル予防による健康寿命の延伸>



産学連携/地域貢献へのアピールポイント

地域高齢者のフレイル・サルコペニアを、身体計測指標、活動量、食事摂取状況を組み合わせて評価し、生活習慣と栄養の両面から健康リスクを把握できます。これにより、地域包括ケアや介護予防での早期スクリーニングや個別指導、さらに医療・栄養・運動の連携による健康支援プログラム開発が期待されます。

相談可能事項

- ・フレイル・サルコペニア評価の導入やスクリーニング方法の設計
- ・食事調査や栄養状態評価を含む生活習慣改善プログラムの共同開発
- ・ウェアラブル機器やアプリを用いた日常活動・食事データのモニタリング
- ・栄養・運動介入の効果評価や新規介入研究の企画・実施

経歴

- 2020年 社会医療法人近森会近森病院 臨床栄養部 管理栄養士
- 2023年 福井大学医学部地域医療推進講座 特命助教
- 2025年 仁愛大学人間生活学部健康栄養学科 講師

学会

- ・日本サルコペニアフレイル学会
- ・日本循環器学会
- ・日本栄養治療学会
- ・日本栄養士会
- ・福井県栄養士会
- ・日本栄養改善学会
- ・日本病態栄養学会
- ・分子調理研究会

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp